

実 用

---

広語小辞典

---

井浦芳信編

実 用

---

# 広語小辞典

---

井浦芳信編



## はしがき

人間はことばや文字を自由自在にあやつりながら生活と心情を向上させ豊かにしてきました。今日の日本も千数百年にわたることばや文字——日本語の長い歴史に支えられているのです。日本語を正しく美しく使うことによって、わたくしたちの毎日は豊かでけじめのある知的で楽しいものになり、それはやがて未来の日本へと連なっていくのです。

わたくしたちは、話し、聞き、読み、書くにつけ、あまり身近なのでついことばや文字をあいまいなままや知らないままにしておくことが多いのですが、ちよつと手間をかけて、何かにつけすぐ辞書を引いて確かめたり覚えたりすればすべては一段と知的に充実し心豊かなものになるでしょう。

この辞典は、右のように考えたすえ、使う人の身になって学習・実務・教養・日常生活にほんとうに役立ち実際に使いやすいものと案を練り新しく編集したもので、この趣旨は活字や記号の選び方にまで徹底しています。内容は、現代日本のわたくしたちに必要な日本語のすべてです。

主要な古語から最新の現代語までを精選し、正確明快な語釈・解説を加え、外来語・時事語・新語・専門語等を含めました。

編集にあたり多方面から御協力を仰ぎました。主要部については造詣深い金子正義氏・中里重吉氏・富士昭雄氏ほか数氏に担当して頂きました。この辞典が、できるだけ多くの人々に活用され、飾りものでない真の座右の書となることを、心から願っております。

## 凡例

## ◇広範で豊富な収録語

この辞典には、現代国語の根幹をなす当用漢字をはじめとして、ひろく学習・実務・教養に役立つ語彙を収めた。その範囲は、古語から現代語におよび、また外来語・新語・時事語・専門語もとりあげた。特に見出し漢字には、当用漢字のほかに、世間では現在でもよく使われる主要な漢字も加えて、広く日常生活のなかで役立つよう配慮した。

## ◇見出しとその並べ方

(1) 見出しは、原則として日本語は平かなを、外来語は片かなを用い、いずれも太字で、現代かなづかいで示した。

(2) 見出しの並べ方は五十音順とし、さらに次の方

式に従った。

△イ▽清音・濁音・半濁音の順

こはん【湖畔】 きんぶん【均分】

こぼん【小判】 きんぶん【金粉】

ごぼん【碁盤】 ぎんぶん【銀粉】

△ロ▽促音・拗音<sup>は</sup>は、直音の前

あつかん【悪漢】 かしゃ【貨車】

あつかん【熱燭】 かしゃ【貸家】

△ハ▽日本語と外来語では、日本語が前

さんば【産婆】

サンバ

## ◇見出し漢字

(1) 熟語を構成する当用漢字(一八五〇字)を『』に包んで大活字で示した。このうち、新旧両字体があるものは、旧字体を「」の中に小活字で示した。

えん【遠】「遠」



(2) 当用漢字表にない漢字も、教科書・新聞・雑誌などによく現われるものは、つとめてとりあげた。この場合、その漢字を「」の中に小活字で示し、右肩に×の記号を付けて、当用漢字と区別した。

そう【爽】

### ◇見出しの書き表わし方

(1) 見出しの書き表わし方を「」の中に示した。

表記は当用漢字表・同音訓表・同字体表・現代かなづかい・新送りがなを用い、次の記号を右肩に付けた。

× 当用漢字以外の漢字（人名用漢字をふくむ）

△ 当用漢字表にあるが、同音訓表にその音または訓が認められていない読み方

無印 当用漢字表にある字

きしょう【希少・稀少】

かぐわしい【<sup>△</sup>香しい・<sup>△</sup>芳しい・<sup>×</sup>馨しい】

ただし、地名・人名など固有名詞は、記号を省略

した。

かい【<sup>△</sup>甲<sup>×</sup>斐】 ①効果。②さきめ。

かい【甲斐】 旧国名、いまの山梨県。

(2) 外来語と他の語との複合語の場合は、外来語の部分を一で示した。

アートし【一紙】

### ◇送りがな

送りがなは、内閣告示（昭和四十八年六月八日）の「送りがなのつけ方」を基準とし、その表記にあたっては原則として「本則」を適用した。なお「許容」が適用される語については（一）で示した。（二）でくくられた部分は送っても送らなくてもよい場合を示す。

### ◇音訓

見出し漢字には、原則として音読みの項に、音を片かなで、訓を平がなで、いずれも現代かなづかい

で示した。音訓のうち、太字は「当用漢字音訓表」に認められているものである。認められていないものには細字を用いた。

かん【乾】

カン・ケン・かわく・かわかす・ほす・いぬい

あん【闇】

アン・やみ・くらしい

### ◇語釈と解説

(1) できるだけ簡明な語釈・解説を加えた。原則として当用漢字・現代かなづかいを用い、一語にいくつもの意味がある場合には、①②③…で区別して、それぞれの意味を明らかにした。

あいけん【愛犬】

①かわいがっている犬。  
②犬をかわいがること。

(2) 見出し漢字の語釈においては、その漢字の基本的な意味を説明する立場から、当用漢字で表記できる場合であっても、特にかな書きで表わしたものである。

か【歌】

①うたうたう。  
②うた。

(3) 場合によって、当用漢字以外の漢字も用いたか、むずかしいと思われるものや、特別の読み方をするものには、振りがなを付けた。

(4) 古語には、解説の初めに④の記号を付けた。

いそ【五△十】

⑤五十が、……

(5) 必要と思われるものは「」の中に用例をかかげた。この場合、見出し語にあたる部分は―によって省略した。

おうぼ【応募】

……「―者」

用例のうち、理解しにくいと考えられるものには、用例に続けてその意味を説明した。

かんむり【冠】

……「―をまげる」ふき  
げんになる。

(6) 参照すべきものは、↓の記号を付けて、その項目を示した。

うめる【埋める】

①↓うすめる。②湯に水  
をさす。……

(7) 対義語は↑を、同義語には∥の記号を付けて、

それぞれ示した。

おもい【重い】……………軽い

あいがん【哀願】……………哀訴

(8) 注意すべきものや、参考にすべきものには、解説のあとに＊を付けて、補足的に説明を加えた。

いか【以下】……………「五年以下」といえば「五年」もふくむ。

### ◇常用漢字表案の漢字

昭和五十四年三月第十三期国語審議會は、現行の当用漢字表に代わるものとして、常用漢字表案をまとめ、文部大臣に中間答申した。次期審議會による正式答申を経た後、一般に公布され、実務に移されることになる。常用漢字表案は、一般の社会生活で文章を書き表す場合の漢字使用の「目安」を示すものであるとして、当用漢字表の漢字千八百五十字に九十五字を加え、当用漢字表にある漢字十九字を削り、計千九百二十六の字種を掲げている。この辞典は、常用漢字表案で追加または削除された字種・音

訓に次の表示をした(略語・記号表参照)。なお、字体は、常用漢字表案の示す字体によった。

### 略語・記号表

#### 【漢字記号】

△ × 当用漢字表にない字

△ 当用漢字表にあるが、同音訓表にその音ま

たは訓が認められていない読み方

○ 常用漢字表案で追加された字種・音訓

● 常用漢字表案で削除された字種・音訓

▲ 常用漢字表案で認められていない音訓

↓ ……を見よ      ↑ 対義語      || 同義語

| 見出しの外來語の重複部分と、用例中の見

出しの省略

\* 参考・注      ㊦ 古語

## あ

②会合のときなどにあらたまつ





## あ

- ないこと。あやふや。②いかがわしいこと。「一宿」
- あいまって【相・俟って】ともに助けあつて。「両面」
- あいまたがい【相身互い】たがいに同情し、助けあふこと
- アイモ ①ニームス映画用の三十二上型カメラの通称
- あいよう【愛用】①好んで用ゐること。②大切に用ゐること。いつも使っていること。
- あいよく【愛欲・愛・慾】①欲望に執着すること。②性愛の欲望。
- あいらく【哀楽】①悲しみと楽しみのこと。②喜怒哀楽
- あいれん【哀・憐】あわれみけること。「一の情」
- あいろ【隘路】①せまきけわしき道。②物事をすすめていくうえの障害。
- アイロン 加熱して衣服などのしる器具。わをのほし、形を整える器具。
- あう【合う】①一致する。②形がぴったりする。③似合う。④損益がつりあう。⑤互いにしる。「話し」
- あう【会う・遭う・逢う】①人と顔を合わせる。面会する。

- 「人に」②ある物事に出あう。「災難に」
- アウトサイダー ①ものごとをする仲間以外の人。局外者
- アウトライン ①外側の線。②あらまし
- あえぐ【喘ぐ】①息をきこふ。②苦しむ。③息をきこふ。④苦しむ。⑤苦しむ。⑥苦しむ。⑦苦しむ。⑧苦しむ。⑨苦しむ。⑩苦しむ。⑪苦しむ。⑫苦しむ。⑬苦しむ。⑭苦しむ。⑮苦しむ。⑯苦しむ。⑰苦しむ。⑱苦しむ。⑲苦しむ。⑳苦しむ。㉑苦しむ。㉒苦しむ。㉓苦しむ。㉔苦しむ。㉕苦しむ。㉖苦しむ。㉗苦しむ。㉘苦しむ。㉙苦しむ。㉚苦しむ。㉛苦しむ。㉜苦しむ。㉝苦しむ。㉞苦しむ。㉟苦しむ。㊱苦しむ。㊲苦しむ。㊳苦しむ。㊴苦しむ。㊵苦しむ。㊶苦しむ。㊷苦しむ。㊸苦しむ。㊹苦しむ。㊺苦しむ。㊻苦しむ。㊼苦しむ。㊽苦しむ。㊾苦しむ。㊿苦しむ。
- あえて【敢えて】①むづかしい。②むづかしい。③むづかしい。④むづかしい。⑤むづかしい。⑥むづかしい。⑦むづかしい。⑧むづかしい。⑨むづかしい。⑩むづかしい。⑪むづかしい。⑫むづかしい。⑬むづかしい。⑭むづかしい。⑮むづかしい。⑯むづかしい。⑰むづかしい。⑱むづかしい。⑲むづかしい。⑳むづかしい。㉑むづかしい。㉒むづかしい。㉓むづかしい。㉔むづかしい。㉕むづかしい。㉖むづかしい。㉗むづかしい。㉘むづかしい。㉙むづかしい。㉚むづかしい。㉛むづかしい。㉜むづかしい。㉝むづかしい。㉞むづかしい。㉟むづかしい。㊱むづかしい。㊲むづかしい。㊳むづかしい。㊴むづかしい。㊵むづかしい。㊶むづかしい。㊷むづかしい。㊸むづかしい。㊹むづかしい。㊺むづかしい。㊻むづかしい。㊼むづかしい。㊽むづかしい。㊾むづかしい。㊿むづかしい。
- あえない【敢え無い】①むづかしい。②むづかしい。③むづかしい。④むづかしい。⑤むづかしい。⑥むづかしい。⑦むづかしい。⑧むづかしい。⑨むづかしい。⑩むづかしい。⑪むづかしい。⑫むづかしい。⑬むづかしい。⑭むづかしい。⑮むづかしい。⑯むづかしい。⑰むづかしい。⑱むづかしい。⑲むづかしい。⑳むづかしい。㉑むづかしい。㉒むづかしい。㉓むづかしい。㉔むづかしい。㉕むづかしい。㉖むづかしい。㉗むづかしい。㉘むづかしい。㉙むづかしい。㉚むづかしい。㉛むづかしい。㉜むづかしい。㉝むづかしい。㉞むづかしい。㉟むづかしい。㊱むづかしい。㊲むづかしい。㊳むづかしい。㊴むづかしい。㊵むづかしい。㊶むづかしい。㊷むづかしい。㊸むづかしい。㊹むづかしい。㊺むづかしい。㊻むづかしい。㊼むづかしい。㊽むづかしい。㊾むづかしい。㊿むづかしい。
- あえる【和える】①野菜や魚を煮る。②野菜や魚を煮る。③野菜や魚を煮る。④野菜や魚を煮る。⑤野菜や魚を煮る。⑥野菜や魚を煮る。⑦野菜や魚を煮る。⑧野菜や魚を煮る。⑨野菜や魚を煮る。⑩野菜や魚を煮る。⑪野菜や魚を煮る。⑫野菜や魚を煮る。⑬野菜や魚を煮る。⑭野菜や魚を煮る。⑮野菜や魚を煮る。⑯野菜や魚を煮る。⑰野菜や魚を煮る。⑱野菜や魚を煮る。⑲野菜や魚を煮る。⑳野菜や魚を煮る。㉑野菜や魚を煮る。㉒野菜や魚を煮る。㉓野菜や魚を煮る。㉔野菜や魚を煮る。㉕野菜や魚を煮る。㉖野菜や魚を煮る。㉗野菜や魚を煮る。㉘野菜や魚を煮る。㉙野菜や魚を煮る。㉚野菜や魚を煮る。㉛野菜や魚を煮る。㉜野菜や魚を煮る。㉝野菜や魚を煮る。㉞野菜や魚を煮る。㉟野菜や魚を煮る。㊱野菜や魚を煮る。㊲野菜や魚を煮る。㊳野菜や魚を煮る。㊴野菜や魚を煮る。㊵野菜や魚を煮る。㊶野菜や魚を煮る。㊷野菜や魚を煮る。㊸野菜や魚を煮る。㊹野菜や魚を煮る。㊺野菜や魚を煮る。㊻野菜や魚を煮る。㊼野菜や魚を煮る。㊽野菜や魚を煮る。㊾野菜や魚を煮る。㊿野菜や魚を煮る。
- あえん【亜鉛】銀灰色の金属。元素。電池の陰極やメッキに用いる。元素記号 Zn。
- あえんか【亜鉛華】白い粉末。化粧用。医薬用。
- あおあらし【青嵐】初夏、ころに吹く強い風。
- あおい【葵】①たちあおい。ふたばあおい。ふゆあおいなどの総称。②徳川

- 將軍家の紋所。
- あおいきといき【青息吐息】非常に困難な状態に陥っているようす。
- あおいまつり【葵祭】五月十五日の京都賀茂神社のまつり。京都三大祭の一つ。
- あおいろしんこく【青色申告】青色の用紙であらかじめ申告すること。この申告によって税法上の特典が認められる。
- あおうなばら【青海原】青青とした広い海。大海原。
- あおうめ【青梅】熟していない。青い梅の実。
- あおかび【青薔薇】かびの一種。黒みがかった緑色で、もち・パンその他の食品に生ずる。
- あおぐ【仰ぐ】①上を向く。②うやむやい。③飲む。④飲む。⑤飲む。⑥飲む。⑦飲む。⑧飲む。⑨飲む。⑩飲む。⑪飲む。⑫飲む。⑬飲む。⑭飲む。⑮飲む。⑯飲む。⑰飲む。⑱飲む。⑲飲む。⑳飲む。㉑飲む。㉒飲む。㉓飲む。㉔飲む。㉕飲む。㉖飲む。㉗飲む。㉘飲む。㉙飲む。㉚飲む。㉛飲む。㉜飲む。㉝飲む。㉞飲む。㉟飲む。㊱飲む。㊲飲む。㊳飲む。㊴飲む。㊵飲む。㊶飲む。㊷飲む。㊸飲む。㊹飲む。㊺飲む。㊻飲む。㊼飲む。㊽飲む。㊾飲む。㊿飲む。
- あおげ【青毛】青へをおびて見える黒い毛。なみの馬。
- あおざかな【青魚】せなかの青い魚のこと。さば、いわし、さんまなど。

- あおざめる【青ざめる】血の気がなくなつて顔色が青白くなる。
- あおじやしん【青写真】①青地に白色で設計図などを複写したもの。②計画案。
- あおすじ【青筋】①青い色の筋。②皮膚の表面に浮き出てみえる静脈。③「一」を立てる。かんしやくをおこす。
- あおた【青田】①青田とした。②稲がまだ実っていない田。
- あおだいしょう【青大将】へびの一種。中型で茶色をして無毒。
- あおたがい【青田買い】①稲の成熟前に収穫量を見越してその田の米を買いとること。②卒業前の学生に求人側が早くから採用をとり決め、人手を確保すること。
- あおてんじょう【青天井】空を天井にたとえていう言葉。青空。
- あおにさい【青二才】未熟な若い人を軽べつていう言葉。
- あおば【青葉】①青葉としげ。②新緑。

- あおびようたん【青瓢箪】①未熟の青いひょうたん。②やせて顔色の悪い人をあさけつていう言葉。
- あおみ【青み】①青い色。②青い色。③青い色。④青い色。⑤青い色。⑥青い色。⑦青い色。⑧青い色。⑨青い色。⑩青い色。⑪青い色。⑫青い色。⑬青い色。⑭青い色。⑮青い色。⑯青い色。⑰青い色。⑱青い色。⑲青い色。⑳青い色。㉑青い色。㉒青い色。㉓青い色。㉔青い色。㉕青い色。㉖青い色。㉗青い色。㉘青い色。㉙青い色。㉚青い色。㉛青い色。㉜青い色。㉝青い色。㉞青い色。㉟青い色。㊱青い色。㊲青い色。㊳青い色。㊴青い色。㊵青い色。㊶青い色。㊷青い色。㊸青い色。㊹青い色。㊺青い色。㊻青い色。㊼青い色。㊽青い色。㊾青い色。㊿青い色。
- あおむく【仰向く】上を向く。うむく。
- あおやぎ【青柳】①青葉とたやなぎ。②はかばかのむきみ。③などに使う。
- あおり【煽り】①あおる。②あおる。③あおる。④あおる。⑤あおる。⑥あおる。⑦あおる。⑧あおる。⑨あおる。⑩あおる。⑪あおる。⑫あおる。⑬あおる。⑭あおる。⑮あおる。⑯あおる。⑰あおる。⑱あおる。⑲あおる。⑳あおる。㉑あおる。㉒あおる。㉓あおる。㉔あおる。㉕あおる。㉖あおる。㉗あおる。㉘あおる。㉙あおる。㉚あおる。㉛あおる。㉜あおる。㉝あおる。㉞あおる。㉟あおる。㊱あおる。㊲あおる。㊳あおる。㊴あおる。㊵あおる。㊶あおる。㊷あおる。㊸あおる。㊹あおる。㊺あおる。㊻あおる。㊼あおる。㊽あおる。㊾あおる。㊿あおる。
- あおる【呷る】①一息に飲む。②飲む。③飲む。④飲む。⑤飲む。⑥飲む。⑦飲む。⑧飲む。⑨飲む。⑩飲む。⑪飲む。⑫飲む。⑬飲む。⑭飲む。⑮飲む。⑯飲む。⑰飲む。⑱飲む。⑲飲む。⑳飲む。㉑飲む。㉒飲む。㉓飲む。㉔飲む。㉕飲む。㉖飲む。㉗飲む。㉘飲む。㉙飲む。㉚飲む。㉛飲む。㉜飲む。㉝飲む。㉞飲む。㉟飲む。㊱飲む。㊲飲む。㊳飲む。㊴飲む。㊵飲む。㊶飲む。㊷飲む。㊸飲む。㊹飲む。㊺飲む。㊻飲む。㊼飲む。㊽飲む。㊾飲む。㊿飲む。
- あか【赤】①七色の一つ。三原色の一つ。②あかがね。③共産主義者。④あか。⑤あか。⑥あか。⑦あか。⑧あか。⑨あか。⑩あか。⑪あか。⑫あか。⑬あか。⑭あか。⑮あか。⑯あか。⑰あか。⑱あか。⑲あか。⑳あか。㉑あか。㉒あか。㉓あか。㉔あか。㉕あか。㉖あか。㉗あか。㉘あか。㉙あか。㉚あか。㉛あか。㉜あか。㉝あか。㉞あか。㉟あか。㊱あか。㊲あか。㊳あか。㊴あか。㊵あか。㊶あか。㊷あか。㊸あか。㊹あか。㊺あか。㊻あか。㊼あか。㊽あか。㊾あか。㊿あか。
- あかいとり【赤い鳥】大正七年、鈴木三重吉が創刊した童話雑誌。昭和四年休刊。
- あかいはね【赤い羽根】







アクチブ

①能動的。②共産党の活動家。

あくどい

①ひどく、しつこい。②やり方が度をこして悪い。

あくとう

①悪党。②悪い仲間。③悪い奴。悪漢。の者たち。

あくどく

①悪徳。人道にはおこない。「一商人」。

あくにち

①日からの減算など。②運の悪い日。③吉日。

あくにん

①悪人。②悪魔。悪漢。③善人。

あくば

①悪罵。口ぎたなくと。ひどい罵口。

あくび

①欠伸。つかれたとき、眠いときなどに自然に大きく口が開いて出る息。

あくひつ

①悪筆。字がへたな文字。②達筆。

あくぶん

①悪文。へたな文。②文。③文。④文。

あくへい

①悪癖。悪い習慣。②悪習。悪い習慣。

あくへき

①悪癖。悪い癖。②悪習。悪い習慣。

あくま

①悪魔。②人の心をよわせ悪にさせる。

そう悪神。②極悪人。

あくまで

①飽くまで。②最後まで。③最後まで。

あくむ

①縁起のわるい夢。②おそろしい夢。③いやな夢。④夢としか思われないような、いやなことや恐ろしいこと。

あくめい

①悪名。②悪い評判。③悪い。

あくやく

①悪役。②演劇・映画などでの、かたき役。悪形。

あくよう

①悪用。②悪いことに利用すること。③善用。

あくら

①胡座。②脚を組み合す。③悪。

あくらつ

①悪辣。②ひどく。③悪い。

あくりよう

①悪霊。②死霊。③死霊。

アグレマン

①承認。同意。②大・公使を派遣する前にあらかじめ相手国に求める承認。

アクロバット

①軽わざ。曲芸。②それが職業の人。

あけ

①朱の色。②赤い色。

「一にそまる」③朱の色。緋の色。

あげ

①上げる。②着物のゆき・たけをからだに合わせる。③短くぬいづめる。

あげ

①揚げ。②揚げたもの。

あげがた

①明け方。②夜の明前のほの暗いころ。③夜明け。

あげく

①連歌・俳句の七・七音の句。②発句。③「一のはて」。

あけくれ

①明け暮れ。②朝。③日。④いつも。⑤始終。

あげしお

①上げ潮。②潮。③お。④さし潮。⑤引潮。

あげすけ

①物事をつつみかくさな。②「一に事情を話す」。

あげぞこ

①見せかけ。②見せかけ。③見せかけ。④見せかけ。⑤見せかけ。

あげだい

①芸者を呼ぶ。②代金。③玉代。④花代。

あげて

①残す。②残す。③残す。④残す。⑤残す。

あけのみようじよう

①明。②明。③明。④明。⑤明。

けの明星

①夜明け前に東方に金星。②よいの明星。

あけび

①木通。②通草。③あけび科のつる性落葉低木。秋に楕円形の実が熟し紫にさける。実は食用。つるでかこを編む。

あけぼの

①曙。②夜がほのぼの。③夜がほのぼの。④夜がほのぼの。⑤夜がほのぼの。

あけまき

①左右に二つの輪をつくる子。②ひもの結び方の一つ。③またかい貝の二枚貝。

あけまく

①芝居の出入口や、能舞台の間の間と橋脚の間に設けた垂れ幕。

あげもの

①揚げ物。②揚げた食品の総称。

あける

①明け。②年や月が新しくなる。③すきま・あきをつくる。④あいたところをつくる。⑤一定期間がすぎること。⑥中のものを中へ出す。⑦中のものを中へ出す。⑧中のものを中へ出す。⑨中のものを中へ出す。⑩中のものを中へ出す。⑪中のものを中へ出す。⑫中のものを中へ出す。⑬中のものを中へ出す。⑭中のものを中へ出す。⑮中のものを中へ出す。⑯中のものを中へ出す。⑰中のものを中へ出す。⑱中のものを中へ出す。⑲中のものを中へ出す。⑳中のものを中へ出す。㉑中のものを中へ出す。㉒中のものを中へ出す。㉓中のものを中へ出す。㉔中のものを中へ出す。㉕中のものを中へ出す。㉖中のものを中へ出す。㉗中のものを中へ出す。㉘中のものを中へ出す。㉙中のものを中へ出す。㉚中のものを中へ出す。㉛中のものを中へ出す。㉜中のものを中へ出す。㉝中のものを中へ出す。㉞中のものを中へ出す。㉟中のものを中へ出す。㊱中のものを中へ出す。㊲中のものを中へ出す。㊳中のものを中へ出す。㊴中のものを中へ出す。㊵中のものを中へ出す。㊶中のものを中へ出す。㊷中のものを中へ出す。㊸中のものを中へ出す。㊹中のものを中へ出す。㊺中のものを中へ出す。㊻中のものを中へ出す。㊼中のものを中へ出す。㊽中のものを中へ出す。㊾中のものを中へ出す。㊿中のものを中へ出す。

あけわたす

①明け渡す。②建物の壁などを立ちのいて人に手渡す。

あご

①顎。②顎。③顎。④顎。⑤顎。

あこがれる

①憧れる。②憧れる。③憧れる。④憧れる。⑤憧れる。

あこやがい

①阿古屋貝。②二枚貝の一種。暖かい海にすむ。貝がら・真珠をとる。真珠貝。





った身分の低いさむらい。

**あしげ【足蹴】** ①足でける  
②い仕打ち。

**あじさい【紫陽花】**

ゆきのした科の落葉低木。夏、  
青色のたくさん的小花が球のよ  
うに集まって咲く。

**アシスタント** 手助けをする  
者。助手。

**あしだ【足駄】** 道の悪いと  
樹の高い下駄。高下駄。

**あしだい【足代】** 交通費。旅  
費。

**アジタート** 「感情をこめて」  
「情熱的に」の音楽  
用語。

**あしだまり【足溜(ま)】**

①しばらくとどまる場所。  
②足をかける所。足がかり。

**あしつき【足つき】** ①歩く  
足がかり。②足の付いた道  
具。

**あしてまとい【足手纏】**

「物事をするのにじやまにな  
る。また、じやまにな  
る人。」あしてまとい

**アジト** 「アジテイティング・ポイ  
ント」の略。労働争議な  
どを指導したり、左翼運動を興  
動したりする秘密の本拠。

**あしどり【足取り】** ①歩き  
つき。②歩いたみちすじ。怪路。  
「犯人の—をつかむ」③相場の  
高低。\*すもうのわざの一種は  
「足取り」と言う。

**あしなみ【足並(み)】** ①多  
人がいっしょに歩くときの、足  
のそろいぐあい。歩調。—をそ  
ろえる。②多くの人が物事をす  
るときの気持のそろい方。

**あしならし【足慣(ら)し】**

①足を強くす  
足。馴(ら)し。②足の速く歩  
く練習。足がため。③下準備。

**あしば【足場】** ①足をかける  
とき高い所へのぼるため、丸太  
やパイプを組んで作ったもの。  
②よりどころ。③選挙運動の—  
をきく。④交通の便。⑤学校  
への「がよい」⑥足もとどぐあ  
い。「雪どけで—が悪い」

**あしはら【葦原】** ①あし  
の原。②日本の古名。—の端  
の国。\*あしはらの—とよむ。

**あしび【馬酔木】** 科の常  
緑低木。春にすすり形の白い  
花を開く。葉は有毒。あせび。

**あしぶみ【足踏み】** ①同じ  
いて足をかわるがわる踏み動  
作。②物事が同じところにとど

まって進行しないこと。「交通  
は—状態だ」

**アジプロ** アジテイションとフ  
ロガングラフの意。扇  
動と宣伝。

**あしへん【足偏】** 漢字の偏の  
「通」などのり部分

**あしまめ【足まめ】** うめど  
うに歩きまわること。

**あしもと【足元・足下・足  
許】** ①足の運び。歩き方。「年  
△許」をとると「—があぶない」  
②手近な所。「—を固める」③  
立場。状況。「—を見る」弱み  
につけこむ

**あしらう** ①もてなす。「客を—  
う。」「舞で—」②とりあわせる。  
「オーバーのえりに道花を—」  
③扇動する。おだてる。—

**アジる** 扇動する。おだてる。—

**あじろ【網代】** ①冬、水中  
に木や竹を  
組んで、魚をとる仕掛け。②ひ  
のき、竹を編んだもの。垣。び  
ようふ。天井。牛車などなどに用  
いる。

**あじわう【味わう】** ①味を  
②物事の意味やおもしろみをよく  
考える。吟味。する。鑑賞す  
る。「名曲を—」③体験する。「苦  
しみを—」④おいしさをたのし  
む。「上等の料理を—」

**あす【明日】** きょうの次の  
日。あした  
みょうにち。翌日。「—あき  
て」

**あすかじだい【飛鳥時  
代】** 推古天皇(五九二)から文  
武天皇(七一〇)にいたる  
百余年間。多く奈良県飛鳥島地  
方に都を置いたためこの名があ  
る。仏教がさかんで文化が栄え  
た。

**あずかる【預かる】** ①頼ま  
る。②貴重品を—。③引き  
受けてせわをする。「こともを  
—」④物事の始末をまかせられ  
る。「けんかを—」⑤おさえて  
とめておく。保留する。「採決  
を—」

**あずかる【与る】** ①物事に  
関与する。②関係する。受  
ける。「相談に—」③こうむる。受  
ける。「配慮に—」

**あずき【小豆】** まめ科の一年  
生植物。夏、  
黄色いさやの形の花を開き、  
細長いさやの中にえんじ色の種  
(豆)ができる。あん。しるこな  
どにして食用。

**あずける【預ける】** ①保管  
を頼む。②仲介。処理をまかせ  
る。

**あずさ【梓】** ①植物のあかめ  
がしわ。よくそ

む。「上等の料理を—」

**あす【明日】** きょうの次の  
日。あした  
みょうにち。翌日。「—あき  
て」

**あすかじだい【飛鳥時  
代】** 推古天皇(五九二)から文  
武天皇(七一〇)にいたる  
百余年間。多く奈良県飛鳥島地  
方に都を置いたためこの名があ  
る。仏教がさかんで文化が栄え  
た。

**あずかる【預かる】** ①頼ま  
る。②貴重品を—。③引き  
受けてせわをする。「こともを  
—」④物事の始末をまかせられ  
る。「けんかを—」⑤おさえて  
とめておく。保留する。「採決  
を—」

**あずかる【与る】** ①物事に  
関与する。②関係する。受  
ける。「相談に—」③こうむる。受  
ける。「配慮に—」

**あずき【小豆】** まめ科の一年  
生植物。夏、  
黄色いさやの形の花を開き、  
細長いさやの中にえんじ色の種  
(豆)ができる。あん。しるこな  
どにして食用。

**あずける【預ける】** ①保管  
を頼む。②仲介。処理をまかせ  
る。

**あずさ【梓】** ①植物のあかめ  
がしわ。よくそ

む。「上等の料理を—」

**あす【明日】** きょうの次の  
日。あした  
みょうにち。翌日。「—あき  
て」

**あすかじだい【飛鳥時  
代】** 推古天皇(五九二)から文  
武天皇(七一〇)にいたる  
百余年間。多く奈良県飛鳥島地  
方に都を置いたためこの名があ  
る。仏教がさかんで文化が栄え  
た。

**あずかる【預かる】** ①頼ま  
る。②貴重品を—。③引き  
受けてせわをする。「こともを  
—」④物事の始末をまかせられ  
る。「けんかを—」⑤おさえて  
とめておく。保留する。「採決  
を—」

**あずかる【与る】** ①物事に  
関与する。②関係する。受  
ける。「相談に—」③こうむる。受  
ける。「配慮に—」

**あずき【小豆】** まめ科の一年  
生植物。夏、  
黄色いさやの形の花を開き、  
細長いさやの中にえんじ色の種  
(豆)ができる。あん。しるこな  
どにして食用。

**あずける【預ける】** ①保管  
を頼む。②仲介。処理をまかせ  
る。

**あずさ【梓】** ①植物のあかめ  
がしわ。よくそ

む。「上等の料理を—」

**あす【明日】** きょうの次の  
日。あした  
みょうにち。翌日。「—あき  
て」

**あすかじだい【飛鳥時  
代】** 推古天皇(五九二)から文  
武天皇(七一〇)にいたる  
百余年間。多く奈良県飛鳥島地  
方に都を置いたためこの名があ  
る。仏教がさかんで文化が栄え  
た。

**あずかる【預かる】** ①頼ま  
る。②貴重品を—。③引き  
受けてせわをする。「こともを  
—」④物事の始末をまかせられ  
る。「けんかを—」⑤おさえて  
とめておく。保留する。「採決  
を—」

**あずかる【与る】** ①物事に  
関与する。②関係する。受  
ける。「相談に—」③こうむる。受  
ける。「配慮に—」

**あずき【小豆】** まめ科の一年  
生植物。夏、  
黄色いさやの形の花を開き、  
細長いさやの中にえんじ色の種  
(豆)ができる。あん。しるこな  
どにして食用。

**あずける【預ける】** ①保管  
を頼む。②仲介。処理をまかせ  
る。

**あずさ【梓】** ①植物のあかめ  
がしわ。よくそ

む。「上等の料理を—」

**あす【明日】** きょうの次の  
日。あした  
みょうにち。翌日。「—あき  
て」

**あすかじだい【飛鳥時  
代】** 推古天皇(五九二)から文  
武天皇(七一〇)にいたる  
百余年間。多く奈良県飛鳥島地  
方に都を置いたためこの名があ  
る。仏教がさかんで文化が栄え  
た。

**あずかる【預かる】** ①頼ま  
る。②貴重品を—。③引き  
受けてせわをする。「こともを  
—」④物事の始末をまかせられ  
る。「けんかを—」⑤おさえて  
とめておく。保留する。「採決  
を—」

**あずかる【与る】** ①物事に  
関与する。②関係する。受  
ける。「相談に—」③こうむる。受  
ける。「配慮に—」

**あずき【小豆】** まめ科の一年  
生植物。夏、  
黄色いさやの形の花を開き、  
細長いさやの中にえんじ色の種  
(豆)ができる。あん。しるこな  
どにして食用。

**あずける【預ける】** ①保管  
を頼む。②仲介。処理をまかせ  
る。

**あずさ【梓】** ①植物のあかめ  
がしわ。よくそ

む。「上等の料理を—」

**あす【明日】** きょうの次の  
日。あした  
みょうにち。翌日。「—あき  
て」

**あすかじだい【飛鳥時  
代】** 推古天皇(五九二)から文  
武天皇(七一〇)にいたる  
百余年間。多く奈良県飛鳥島地  
方に都を置いたためこの名があ  
る。仏教がさかんで文化が栄え  
た。

**あずかる【預かる】** ①頼ま  
る。②貴重品を—。③引き  
受けてせわをする。「こともを  
—」④物事の始末をまかせられ  
る。「けんかを—」⑤おさえて  
とめておく。保留する。「採決  
を—」

**あずかる【与る】** ①物事に  
関与する。②関係する。受  
ける。「相談に—」③こうむる。受  
ける。「配慮に—」

**あずき【小豆】** まめ科の一年  
生植物。夏、  
黄色いさやの形の花を開き、  
細長いさやの中にえんじ色の種  
(豆)ができる。あん。しるこな  
どにして食用。

**あずける【預ける】** ①保管  
を頼む。②仲介。処理をまかせ  
る。

**あずさ【梓】** ①植物のあかめ  
がしわ。よくそ

む。「上等の料理を—」

**あす【明日】** きょうの次の  
日。あした  
みょうにち。翌日。「—あき  
て」

**あすかじだい【飛鳥時  
代】** 推古天皇(五九二)から文  
武天皇(七一〇)にいたる  
百余年間。多く奈良県飛鳥島地  
方に都を置いたためこの名があ  
る。仏教がさかんで文化が栄え  
た。

**あずかる【預かる】** ①頼ま  
る。②貴重品を—。③引き  
受けてせわをする。「こともを  
—」④物事の始末をまかせられ  
る。「けんかを—」⑤おさえて  
とめておく。保留する。「採決  
を—」

**あずかる【与る】** ①物事に  
関与する。②関係する。受  
ける。「相談に—」③こうむる。受  
ける。「配慮に—」

**あずき【小豆】** まめ科の一年  
生植物。夏、  
黄色いさやの形の花を開き、  
細長いさやの中にえんじ色の種  
(豆)ができる。あん。しるこな  
どにして食用。

**あずける【預ける】** ①保管  
を頼む。②仲介。処理をまかせ  
る。

**あずさ【梓】** ①植物のあかめ  
がしわ。よくそ

る白い結晶の薬。  
**アスファルト** 重油から石油を  
精製したのこり  
かす。また天然にも産する。黒  
い油性の光沢があり、道路の舗  
装や電線のおおひなどに使  
う。

**あずま** 【△東・×吾妻】 ①関東  
地方。  
②昔、京都から江戸・鎌倉を  
さして言った言葉。

**あずまうた** 【△東歌】 万葉  
集・  
地方の人の素朴な和歌。

**あずまおとこ** 【△東男】  
①関東の男。②男らしい男。「  
に京おんな」

**あずまや** 【△四・阿・東屋】  
住だけで壁のない屋根を四方へ  
ふきおろした小屋。庭園などに  
設ける。休息・展覧用。亭。

**あせ** 【汗】 体温調節のため皮膚  
の汗腺から出る水  
分。

**あせ** 【△畔・×畦】 ①田と田と  
の間に土を  
盛りあげて境としたもの。③し  
さい。かもしの、みぞとみぞの  
間にあるしきり。

**あせい** 【×阿世】 世におもね  
ること。「曲せ」

**あせいそうけん** 【亜成層】

【層】成層の下方で七、八千尺  
の高さ。本層は、  
(亜) (1)

**あせくら** 【校倉】 昔の建物  
の一つ。三角形または丸や四角  
形などの長い材木を互い違いに  
組みあけて造る。奈良の正倉院  
は「あせくらづくり」で有名。

**あせしらず** 【汗知らず】  
汗を吸いとらせるのに使う白い  
粉。亜鉛粉・てんかふん・シ  
シコロールなど。

**あせだく** 【汗だく】 汗でび  
りぬれているさま。

**アセチレン** カーバイドに水を  
かけると発生する  
有毒ガス。無色でいやなにおい  
がある。火がつきやすく、強い光  
を出して燃える。灯火工業用。

**アセテート** 酢酸とセルロース  
を原料とした合成  
繊維。軽くて、しわになりにく  
い。

**あせばむ** 【汗ばむ】 汗が出  
じつとりとしめりけを著げる。

**あせも** 【汗疹・汗×疣】 汗  
のために皮膚にできる小さな  
発疹。

**あせる** 【焦る】 急いで気がた  
いらいする。焦をもむ。いらだ  
つ。はやる。

**あせる** 【×根せる】 ①色が暗  
さめる。②弱まり衰える。

**あぜん** 【×亞然】 あきれて物  
ようす。あきれかえるようす。

**アソシエーション** 連合。協  
会。

**あそばす** 【遊ばす】 ①遊ば  
す。②休ませる。③「する」の尊敬  
語。される。なされる。④動物ま  
たは名詞の下につけて、敬意を  
表す。

**あそぶ** 【遊ぶ】 ①すき勝手な  
しむ。②興がずにいる。なにも  
せず時をすごす。「遊く」。③旅  
行する。「歐洲に」。④遊興す  
る。⑤遠隔地や外国に行つて学  
ぶ。遊学する。⑥場所や道具な  
どが使われずに放置される。

**あそん** 【△朝△臣】 ①昔、天皇  
かえた臣。②八色の姓の姓の  
第二位。のちには四位以上の人  
につけた敬称。

**あだ** 【×仇】 ①うらみをもつて  
き。「うらつ」。②害をするも  
の。悪さ。「思を」で返す。

**あだ** 【△徒】 ①むだ。「花はあ  
だ」。②うわつたようす。  
「な男」。③はかないようす。  
かりそめ。「うやおろそかにし  
ない」。

**あたい** 【価・値】 ①ねだん。  
値。②うち。③数学で、かすの  
大きさ。

**あたいする** 【値する】 ①ね  
が他のあるものに相当する。②  
あることをするだけのうらちが  
ある。

**あたえる** 【与える】 ①やる。  
「菓子と」。②「表彰状を」。  
③「あてがう」。「ヒントを」。  
④「あてがう」。「損害を」。

**あたかも** 【×恰も】 ①まる  
うど。「一絵のようだ」。②ち  
うどその時。「時一行楽のシー  
ズン」。

**あだざくら** 【△徒桜】 ①散り  
桜。②うわきな女。

**アダジオ** 奏せよの音楽用語。  
「ゆるやかな速度で演  
奏せよ」。

**あたたかい** 【暖かい・温  
かい】 ①暑くもなく寒くもな  
い。②かねがたくさああるようす。  
「ふところ」が。③ななけい。  
「一心」。

**あたためる** 【暖める・温  
める】 ①からだをあたたかに  
する。②冷えたものを、  
「はよい」に。③つきあつて心をやわら  
を。

**あたたま** 【頭打ち】 ①頭  
の骨に到達したこと。②物事が  
限界に達して動きのとれないこ  
と。

げる。「旧交を」。④大切にす  
る。

**アタクク** ①敵を攻撃すること。  
②登山で険しい岩場や  
山にいどむ。

**あだな** 【×渾名・×仇名】  
本名のほかにその人の特徴をと  
らえて他人がつけた名。愛称。  
ニックネーム。

**あだなすけ** 【×仇情(け)】  
むなししい情愛。

**あだばな** 【△徒花】 咲いても  
ない花。むだ花。

**あたま** 【頭】 ①人間や動物の首  
かみの毛。「うを洗う」。③頭脳  
の働き。「てつべん」。④もの  
の「はじ」。⑤はじめ。「うから反  
対する」。⑥人数。「乗客の」をそるえ  
る。

**あたまうち** 【頭打ち】 ①頭  
の骨に到達したこと。②物事が  
限界に達して動きのとれないこ  
と。

**あたまきん** 【頭金】 ①分  
約の時、最初に渡す金。

**あたまごなし** 【頭ごなし】

人の言うことも聞かずに最初からがみがみ言うこと。

**あたまわり【頭割り】** 人数

じてみな同じようにわりあてること。②均等割合。

**あたらしい【新しい】** ①は

てである。「一戦場」でできたばかりである。「一家」③新鮮である。生き生きしている。「野菜」④これまでにない。「技術」⑤古い。

**あたり【辺り】** ①近く。付近

・範囲・程度などのおおよそを示す。「木」を払う「堂室」としていてそばへ寄せつけないほど立派である。

**あたり【当(た)り】** ①当た

命中・適中・くじ・はすすれ・見当・目あて「一」をひけるがす「一」成功・商売は大「一」人さわり。「一」がやわらかい。②ふりさわり。「一」がからだに害があること。「食」③野球で、打撃部。④間違えて、あと一手で石が打ちあけられること。⑤釣りで、魚がえさにふれること。

**あたりさわり【当(た)り**

障り】さしさわり。悪い影響。

**あたりどし【当(た)り年】**

①収穫の多い年。②物事

が思いどおりにはこふ年。

**あたりまえ【当(た)り前】**

①当然。②ふつう。

**あたりや【当(た)り屋】**

①かけ事などで非常にうまくいった者。②人気者。③野球で、安打をよく打つ選手。④走っての自動車にわざと触れ、治療代などを詐取する、ならず者。

**あたりやく【当(た)り役】**

芝居や映画などで、ある役者が演じて評判をとった役。

**あたる【当(た)る】** ①的中

②からだに受ける。③引き受ける。④照らし合わせて調べる。「原本に」⑤さぐりをいれる。⑥意地悪いよりすをする。「つらく」⑦該当する。⑧反対にある。⑨直面する。⑩その方向にありうまくいく。⑪懸賞などで当選する。⑫飲食物などに中毒してからだにさわる。⑬ひけなどを、そる。

**あたん【亜炭】** 炭素五〇％以

下。炭。

**アチーブメント・テスト**

学習の結果をためすための試験。学力テスト。

**あちこち【彼(あ)方(こ)方(こ)方】**

①遠い所や近い所。あちこち

ら。②くいちがうようす。「事が」になる。

**あつ【圧】** アツ・おす

①おしつける。「一迫・水」

②おしつぶす。「一縮・抑」

③おさえつける。「一制・生他のもの」。

①きわめて熱いこと。

**あつあつ【熱熱】**

①男女が熱愛しているようす。

**あつい【厚い】** ①表と裏の距

人情が深い。「一薄」②

**あつい【暑い】** ①気温が高い。

**あつい【熱い】** ①温度が高

い。②男女の感情が高ぶっている。「一仲」③冷たい。「水」④戦争に武器を使って戦う戦争。⑤冷たい戦争。

**あつい【篤い】** ①思いや

り。②病気がおこ

**あつい【篤い】** ①思いや

り。②病気がおこ

**あつかう【悪化】** 悪い状態にな

**あつかう【扱】** あつかう

**あつかう【扱】** あつかう

**あつかう【扱】** あつかう

**あつかう【扱】** あつかう

**あつかう【扱】** あつかう

**あつかう【扱】** あつかう

**あつかう【扱】** あつかう

せわする。「客を」③仲敷する。「けんかを」。

**あつかましい【厚かまし**

い】あつ。①厚い。②面皮が

**あつかまい【厚巻】** 動物や僅し

かでも、もつともすばらしい部

**あつかまい【厚巻】** 動物や僅し

**あつかまい【厚巻】** 動物や僅し

**あつかまい【厚巻】** 動物や僅し

**あつかまい【厚巻】** 動物や僅し

**あつかまい【厚巻】** 動物や僅し

**あつかまい【厚巻】** 動物や僅し

**あつかまい【厚巻】** 動物や僅し

**あつかまい【厚巻】** 動物や僅し

**あつかまい【厚巻】** 動物や僅し

**あつかまい【厚巻】** 動物や僅し

**あつかまい【厚巻】** 動物や僅し

**あつかまい【厚巻】** 動物や僅し

**あつかまい【厚巻】** 動物や僅し

**あつかまい【厚巻】** 動物や僅し

**あつかまい【厚巻】** 動物や僅し

おしつぶされ

**あつし【圧死】** て死ぬこと。

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて

**あつしゆく【圧縮】** 加えて